

## 複音唱歌

### 千里の道

ちさとの道も、あしもとよりぞ、はじまれる、葉末<sup>はずえ</sup>の露も、つもれば淵と、なるぞかし

雲るる山も、ちりひぢよりぞ、なれりける、ふみよむみちも、ことわりのみは、ひとつなり、

### 閨の板戸

閨のいた戸の、あけゆくそらに、朝日のかげの、さしそめぬれば、ねぐらをいづる、百八十鳥は、霞のうちに、ともよびかはし、夢見る蝶も、とくおきいでて、むれつゝはなに、まひあそぶなり、あさいねする身の、そのおこたりを、いさむるさまなる、春のあけぼの。

### 洋琴及箏曲

#### 独弾曲 一曲

#### 二人連弾曲 二曲

### 箏曲 六段

### 管絃樂 三曲

#### コーラルナイトソング

#### チャーミングヴァレー

#### マーチ

右唱歌音楽ノ効益及該科開設ノ方法教授ノ順序等ハ素ヨリ其一端ヲ示スニ過ギズト雖下モ幸ニ諸氏ノ同感ヲ得テ自今唱歌ヲ學校ニ導クノ端緒ヲ開クニ至ラバ豈惟本掛ノ幸榮ノミナランヤ。實ニ我邦教育上ノ一大幸ト云フベキナリ

〔手書き、長野県上伊那郷土館蔵〕

## 六 音楽取調掛における調査および研究

音楽取調掛設置に際して、伊澤修二が文部卿に提出した「取調見込書」には「東西二洋ノ音楽ヲ折衷シテ新曲ヲ作ル事」「將來國樂ヲ興スベキ人物ヲ養成スル事」「諸學校ニ音楽ヲ實施スル事」の三項目が目標としてかけられた。左の報告書はその中の第一項に関する調査・研究の実績を記したものである（『音監經伺書類上下、音楽取調掛成績申報書』明治十七年）。

### (一) 「諸種ノ樂曲取調ノ事」

諸種ノ樂曲中特ニ取調ヲ要スルモノハ本邦ノ部ニ在テ雅樂俗樂トシ外國ノ部ニ在テ西洋樂清樂トス

俗樂ニ於テハ箏曲、長唄、等ヲ始メ其他各種ニ及ビ西洋樂ニ於テハ古樂今代樂等皆其取調ヲ要スルモノトス

音律ノ事タル固ヨリ人ノ性情ノ自然ニ出ツルモノナレバ古今ヲ問ハズ東西ヲ論ゼズ殆ト同一ニ歸スベシト雖モ其旋法ニ至リテハ各相異ナル所アリ随テ得失アルヲ免レザルモノナレバ博ク諸樂ノ根理ヲ研究シ其得失ヲ考査シ其良否ヲ審覈シ以テ彼長ヲ取り此短ヲ補フノ用ニ供セザル可ラズ是レ第一ニ諸種ノ樂曲取調ヲ要スル所以ナリ

樂曲取調ノ方法ハ從來口傳ニ出デ樂譜ナキモノハ之ヲ精究審解シテ其樂譜ヲ作り若シ其譜アルモ各種異様ノ方法ヲ用キタルモノハ之ヲ各國普通ノ樂譜ニ改メ精確明瞭ニ其曲調ヲ記スル事ヲ務ムベシ

斯ノ如ク諸種ノ樂曲ヲ同一ノ基本ニ歸シ普通ノ樂譜ニヨリテ之ヲ

記シ交互比シテ其得失否ヲ考査シテ取捨ヲ決定スルモノトス

善良ノ樂曲ハ其何類ニ屬スルヲ問ハズ務メテ之ガ和声ヲ作り其樂曲ハ輯メテ一書トナシ樂譜ト共ニ割剛ニ付シテ永存スベシ

國歌資料ノ撰定ヲ始メ其他將來當掛ニ於テ作ル所ノ樂曲ハ彼我雅俗流派ヲ論セズ至良ト認ムルモノハ之ニ和声ヲ附シ漸次蒐集シテ書冊ト作シ之ヲ世ニ公ニスベシ

此類ノ歌曲撰定ノ方法ハ先最初ニ當掛員ヲシテ歌詞ヲ作ラシメ之ニ依リテ同掛員中音樂ニ通スル者ヲシテ樂譜ヲ作ラシムベシ然レドモ茲ニ撰定スル所ノモノハ通常ノ和歌ニ異ナリ樂器ニ和シテ歌フベキ歌曲ナレバ其專旨トスル所モ亦樂曲ニ在リテ歌詞ハ之ニ次クモノトス

樂曲ハ總テ普通ノ譜法ヲ用キテ之ヲ記シ其最佳ナルモノヲ撰ビメーソン氏ヲシテ其和声ヲ作ラシメ又ハ歐米各國ノ音樂新誌ニ載セ西人ヲシテ之ガ和声ヲ作ラシムベシ尤豫メ其新誌ニ廣告シテ至良ノ和声ヲ作りタル者ニハ若干ノ賞金ヲ附與スルノ法ヲ設クルトキハ随分有名ノ大家モ喜ンデ其事業ヲ執ルベケレバ少許ノ費用ヲ以テ最良ノ結果ヲ得且本邦人ノ作りタル樂曲モ博ク世界ニ知ラル、ノ理ニシテ頗ル良法ト云フベキナリ

#### 「高等音樂ノ事」

凡ソ音樂ノ高等ナルハ管絃樂ニ如クモノナシ而シテ高等ノ音樂ハ國民ニ高等ノ思想ヲ感發セシムルモノナレバ國歌ノ撰定等宜シク之ニ依ルベキモノトス今之ヲ分チテ本邦及西洋管絃樂ノ二種トス  
本邦管絃樂ハ特ニ雅樂局ノ設アリテ之ヲ專修スルガ故ニ當掛ニ於

テハ特別ノ理由アルノ際ニ非レバ之ヲ練習スルヲ要セザルベシ  
西洋管絃樂ハ傳習ノ日猶淺シト雖モ當掛助教等ハ既ニ譜面ニヨリテ之ヲ合奏シ得ルノ地位ニ進ミタレバ歐米諸國ヨリ此類ノ樂譜ヲ購入シ之ニヨリテ進歩ノ方法ヲ研究スベシ又本邦人ノ作曲ニテモ一旦其和声ヲ作為スルトキハ皆此類ノ樂器ヲ以テ合奏シ得ルモノナリ

和声ノ事タル其理頗ル高尚ニ涉リ本邦人ノ未ダ曉通セザル所ノモノナリト雖モメーソン氏ノ講義及諸種ノ著書等ニヨリテ其理ヲ研究シ且樂器ニヨリテ實際ニ之ヲ試ルノ方法ヲ設クベシ

#### 「音樂傳習ノ事」

當掛ニ於テハ傳習人ニ授クベキモノハ唱歌、洋琴、風琴、箏、胡弓、及歐洲管絃樂器トス

唱歌ヲ傳習スルハ最初簡單ナル単音歌曲ニ起リ漸次高等ノ唱歌ニ及フモノトス

諸重音唱歌ヲ教授スルハ甚ダ難事ニ屬スト雖トモ現今ニ在リテハ當掛助教等略其理ニ通シタレバ自今ハ高等ノ唱歌書及メーソン氏掛圖等ヨリ適當ノ歌曲ヲ拔萃シ先ツ之ヲ當掛傳習人ニ施シテ其適否ヲ試ミ次ニ女子師範學校ニ施シ漸ヲ以テ諸學校ニ及ボスベシ  
洋琴ノ練習ハ將來彼我雅俗何レノ音樂ヲ學ブニモ必要ニシテ実ニ音樂ノ其礎トモ稱スベキモノナレバ當掛傳習人必習ノ科目ト定ムベシ  
箏及胡弓ハ將來學校唱歌ニ適用スベキモノナル事既ニ前章ニ述ベタル如クナレバ是亦必習ノ科目ト定ムベシ風琴ヲ授クルモ亦其理由之ニ同シ

管絃樂器ハ高等ノ音樂ニ進ムノ徒必ズ學バザル可ラザルモノナレバ當掛ニ於テハ傳習人ノ志望ニ任シテ之ヲ撰習セシムベシ

當掛ニ箏テ若干名ノ傳習人ヲ置キ之ヲ教養スルヲ要スル所以ハ學校唱歌ノ事タル創設ニ属スルヲ以テ新曲ヲ得ル毎ニ先試ニ之ヲ施シテ其適否ヲ檢スルノ具無カル可ラズ是レ傳習人ヲ置クベキ理由ノ一ナリ音樂ノ事タル頗ル習熟シ難キ一科ニシテ尋常ノ人ニテハ僅々數年ニ成業スル能ハズト雖モ之ヲ本邦音樂ニ熟スル者ニ傳習スルトキハ短少ノ期月ヲ以テ好結果ヲ得ル事既ニ當掛ノ經驗ニ於テ明瞭ナリ故ニ此ノ如キ徒ニ傳習スルハ至少ノ費額ト年月トヲ以テ至適ノ音樂教員ヲ養成スル事ヲ得ベシ是レ傳習人ヲ置クベキ理由ノ二ナリ將來我國樂ヲ振興改進スル事ノ如キハ我音樂ニ熟シ能ク音樂ノ理ニ通スルモノヲ得ルニ非レバ能ハズ是ノ如キ者ハ當掛ニ於テ養成スルニ非レバ決シテ他ニ求ムベカラズ是レ傳習人ヲ置クベキ理由ノ三ナリ

女子師範學校ニ於テ傳習スベキモノハ唱歌、風琴、箏及胡弓トス當掛ニ次キ唱歌ノ最モ高尚ノ地ニ達スベキモノハ東京女子師範學校ニ在リ該校生徒ハ諸重音唱歌ノ初歩モ既ニ練習スルニ至リタルバ自今ハ當掛ニ於テ研究ノ上一層高等ノモノヲ得ルニ随ヒメーン氏及ビ助教等ヲシテ之ヲ該校ニ施サシムベシ

風琴ハ音調ノ狂ヒ極メテ少ク學校唱歌ノ教授ニハ最モ適當ニシテ且習ヒ易キモノナレバ之ヲ該校生徒ニ傳習セバ他日唱歌ヲ教授スルニ當リ大ナル助トナルベシ

箏及胡弓ハ之ヲ習フ事風琴ニ比スレバ遙カニ難シト雖モ本邦普通ノ樂器ニシテ且其價モ廉ナルカ故ニ學校唱歌ニハ頗ル適當ノモノ

トス故ニ該校生徒必習ノ一科ト定ムベシ

東京師範學校ニ於テ傳習スベキモノハ女子師範學校ニ大同小異ナリト雖モ甲校ノ唱歌ハ乙校ノ唱歌ニ比スレバ稍下等ニ居リ又箏、胡弓ノ傳習ハ難キニ過キ到底之ヲ施ス事能ハザルモノトス

學習院ニハ專ラ唱歌ノ傳習ヲ為シ特別有志ノ輩ニハ管絃樂器ノ傳習ヲ許スモ可ナルベシ

〔後略〕

このあと明治十五年一月の演習会に及んでいる。一九八頁を参照。

## (二) 「内外音律ノ異同研究ノ事」

其一 音樂教師メーソン氏來航ノ始メニ當リ本邦在來ノ諸種ノ音樂ヲ審聽セシメ其音律ノ西律ニ異ナル所アリヤ又其声曲ノ正理ニ適スルヤ否ヲ訊問セシニ同氏ノ言ニ本邦音樂ニ熟スル所ノ諸家奏スル所ハ毫モ西律ニ異ナル事ナシ但其旋律ノ法ニ於テハ少ク異ナル所アリト云ヒシカ今日ニ至リテハ愈其真ニ然ルヲ信シテ毫モ疑フ所アルヲ見ズ

其二 本邦音樂家ニ就キ我音律ノ西洋ニ齋キヤ否ヲ訊問セシニ箏曲家山勢松韻ノ如キハ始メテ「ピアノ」ノ音ヲ知リタル時ヨリ其律ト箏ノ調子トハ毫モ異ナル所ナシト云ヘリ又雅樂家ノ諸氏ニ就テ之ヲ質セシニ我十二律ハ「ピアノ」ノ十二音（全音七半音五ヲ合シテ云フ）ニ殆ト相同シト云ヘリ於是乎東西音樂家ノ説ク所恰モ符節ヲ合スルガ如キヲ知レリ

其三 音樂取調掛ニ傳習人ヲ置キシ以來入學セシ所ノモノハ皆從前或ハ箏曲ニ或ハ長謡ニ或ハ清樂ニ或ハ雅樂ニ通セシ者ナリ故ニ若

シ本邦ノ音律即チ從前彼等カ習學セシ所ノ声曲ヲシテ西洋ノ音律即チ今將ニ習學セントスル所ノモノト大異アラシメハ其成業ハ殆ト期ス可ラザル程ノ困難ヲ来スベシ可トナレバ從前習學シテ深ク腦漿ニ浸入セシ所ノモノヲ全ク除却スルニ非レバ新律ニ移ル能ハザルヲ以テナリ然ルニ其實蹟ニ就テ之ヲ考察スレバ雅樂箏曲長誦等ニ熟セシモノハ其進歩特ニ著シク教師メーソン氏ヲ始メ他ノ洋人等モ其習熟ノ迅速ナルヲ驚愕シテ措カザルニ至レリ亦以テ彼我ノ音律異ナラザルヲ知ルベキナリ

其四 以上歷學セシ所ノ諸證ハ可ハ即チ可ナリト雖トモ皆ナ偏ニ音樂家ノ耳覺ニ頼テ之カ判斷ヲ下セシモノニシテ理學上ノ理論ヨリ之ヲ明決セシモノニ非ス故ニ音樂ニ熟スルモノハ其真ニ然ル所以ヲ知リテ之ヲ確信スベシト雖トモ未タ以テ音樂ニ熟セザルモノヲシテ之ヲ確信セシム可ラス於是更ニ一法ヲ發明シテ理學上ヨリ之ヲ證セン事ヲ務メ乃チ左ノ結果ヲ得タリ

凡ソ我國ノ樂器中廣ク世上ニ行ハルハ三絃ニ超ユルモノナシ故ニ三絃ヲ以テ彈スル所ノ歌曲能ク西律ニ合スルモノナレバ以テ我民間ノ声律ノ彼律ニ等キヲ證スルヲ得ベシ故ニ本掛ニ於テハ試驗ヲ施スニ當リ特ニ三絃ヲ用テ其目的ヲ達セン事ヲ務メタリ

音律ノ事ヲ精究センニハ空氣ノ顫動數ニ根スル所ノ數理ニ據ラザル可ラス然レトモ其事タル頗ル精確ヲ要スルモノニシテ實施ノ困難ヲ極ムルカ故ニ今一ノ便法ニヨリテ之ヲ證明スベシ其方法即チ左ノ如シ

今一絃ヲ取リテ其發スル所ノ音ヲ根基ト定メ其絃ヲ二分シテ之ヲ彈スレバ乙音(本邦ノ第十三律即チ西洋ノ第八音)ヲ發シ之ヲ三

分スレバ第五音ヲ發シ之ヲ四分スレバ乙音ノ第八音ヲ發スベシ次ニ之ヲ五分シ六分シ七分シ八分シテ逐次諸音ヲ發スルハ自然ノ理ニ出ツルモノニシテ之ヲ天然ノ和絃ト稱ス右ノ理ニ從テ各音ヲ發スル所ノ絃ノ長ヲ定ムル事左ノ如シ

一ハ 第一音ヲ發ス

二分ノ一ハ 第八音即チ第一音(乙)ヲ發ス

三分ノ一ハ 第五音ヲ發ス

四分ノ一ハ 第一音(丙)ヲ發ス

五分ノ一ハ 第三音ヲ發ス

六分ノ一ハ 第五音(乙)ヲ發ス

七分ノ一ハ 第七音ヲ發ス

八分ノ一ハ 第一音(丁)ヲ發ス

右ノ分數ニヨリテ第一第三第五第七短及第八ノ五音ヲ發スベキ故ニ長サヲ定メ得ベシト雖トモ他ノ諸音ハ之ヲ定ムル能ハズ故ニヘルムホルツチンダルチャペルノ如キ理學者ニシテ最モ音樂ノ理論ニ精通セシ諸氏ノ說ヲ取リ之ヲ補足スル事左ノ如シ

第一音ヲ一ト定ムレバ

第一音嬰ハ 十七分ノ十六ナリ

第二音ハ 九分ノ八ナリ

第二音嬰即チ短第三音ハ 六分ノ五ナリ

第三音ハ 五分ノ四ナリ

第四音ハ 四分ノ三ナリ

第四音嬰ハ 二十三分ノ十六ナリ

第五音ハ 三分ノ二ナリ

第五音嬰即チ短第六音ハ 八分ノ五ナリ

第六音ハ 五分ノ三ナリ

第六音嬰即チ短第七音ハ 七分ノ四ナリ

第七音ハ 十五分ノ八ナリ

第八音ハ第一音ノ乙音ニシテ 二分ノ一ナリ

今三絃ノ柱ヨリ棹頭ニ至ルノ距離二尺五寸八分アルニヨリ上ノ比  
例ニヨリ諸音ノ位置ヲ定ムレハ各音ノ絃ノ長サ左ノ如クナルベシ

第一音 二尺五寸八分

第一音嬰 二尺四寸二分八厘

第二音 二尺二寸九分三厘

第二音嬰 二尺一寸五分

第三音 二尺〇六分四厘

第四音 壹尺九寸三分五厘

第四音嬰 壹尺七寸九分四厘

第五音 壹尺七寸二分

第五音嬰 壹尺六寸一分二厘五毛

第六音 壹尺五寸四分八厘

第六音嬰 壹尺四寸七分四厘

第七音 壹尺三寸三分壹厘

第八音 壹尺二寸九分

右ノ如ク各音ノ絃ノ長ヲ定メ三絃ノ棹ニ横線ヲ畫シテ其位置ヲ記  
シ山勢松韻ヲシテ本邦ノ俗曲ヲ彈セシメシニ左ノ如キ結果ヲ得タ  
リ

第一 三絃ノ諸調子

本調子ト称スルモノハ一ノ絃ヲ第一音トシ二ノ絃ヲ第四音ト

シ三ノ絃ヲ第八音トス

二上リト称スルモノハ一ノ絃ヲ第一音トシ二ノ絃ヲ第五音ト

シ三ノ絃ヲ第八音トス

三下リト稱スルモノハ一ノ絃ヲ第一音トシ二ノ絃ヲ第四音ト

シ三ノ絃ヲ第六音嬰即チ短第七音トス

右各調子ノ諸音ヲ定ムルニハ山勢ヲシテ三絃ヲ各種ノ調子ニ合セ  
シメ然ル後第一絃ヲ取り前ニ記スル所ノ諸種ノ横線上ニ於テ之ヲ  
押へ或ル點ニ於テ發スル所ノ音第二絃ト合スルトキハ同律相應ス  
ルノ理ニヨリテ忽チ其顫動ヲ第二絃ニ傳へ又他ノ點ニ於テ發スル  
所ノ音第三絃ト同律ニ至ルトキハ其顫動ヲ第三絃ニ傳フルヲ以テ  
眼能ク律ノ異同ヲ判スルヲ得タリ甲ハ全ク耳覺ニヨリテ音律ヲ調  
シ乙ハ偏ニ視力ニヨリテ其異同ヲ檢シ甲乙ノ成績恰モ符節ヲ合ス  
ルカ如ク前條掲クル所ノ諸音ヲ得タルハ亦奇ナラズヤ  
三絃ニ用フル各調子ノ上ニ掲ル所ノ如キハメーソン氏ノ早ニ發見  
セシ所ニシテ他ノ洋人及日本人中ニモ其然ル所以ヲ説キシモノ既  
ニ數名ノ多キニ至レリ然レトモ理學上ノ道理ニヨリテ之ヲ證明セ  
シハ蓋シ前記ノ試験ヲ以テ始トスルモノナリ  
本邦三絃ノ調子ノ西律ニ同シキハ既ニ前ニ説クカ如シト雖トモ其  
奏曲ノ際果シテ正律ニ合スルヤ否ヤハ未タ世人ノ知ラサル所ナリ  
キ然ルニ本掛ニ於テハ又一ノ試験ニヨリ其真ニ然ル所以ヲ發見セ  
リ即チ横線ヲ棹上ニ畫シテ諸音ノ位置ヲ定メタル所ノ三絃ヲ取り  
山勢氏ヲシテ本邦ノ俗曲數種ヲ奏セシメシニ其際同氏ガ指頭或ハ  
甲ノ横線上ニ或ハ乙ノ横線上ニ至リテ之ヲ押ユルモ未タ曾テ線上

ヲ離レテ他處ニ走ル事ナシ同氏ハ素ヨリ盲人ナルヲ以テ其横線何ノ處ニ畫セルヤヲ知ルノ理斷エテ有ル事ナシト雖トモ其指頭ノ全ク各音ノ位置ニ至ルヲ見レハ以テ我俗曲ニ用フル所ノ声律ハ自ラ西洋ノ律ニ異ナラザルヲ證スルニ足ルベシ尤三絃ノ如キ不完全ナル樂器ハ音調狂ヒ易キモノナルヲ以テ理学的ニ精確ナル結果ヲ求メン事ハ得テ望ム可ラザルナリ

第二 箏曲ノ調子

平調子ト稱スル所ノモノハ二ノ絃ヲ第一音トシ三ノ絃ヲ第二音トシ四ノ絃ヲ第二音嬰即チ短第三音トシ五ノ絃ヲ第五音トシ一ノ絃ハ之ト同律ナリ然シテ六ノ絃ヲ第五音嬰即チ短第六音トシ七ノ絃ヲ第八音トス即チ二ノ絃ノ乙音ナリ其他諸絃ハ次ヲ逐テ諸音ノ乙音トナリ又斗為巾ノ三絃ハ丙音トナルモノナリ

箏曲ニ用フル所ノ調子ノ類多シト雖トモ其律ニ異ルトコロナキハ準シテ知ルヘキナリ

右ニ掲ケタル平調子ナルモノハ西洋ノ短音階ニ毫モ異ナル事ナシ抑モ短音階トハ第三音ト第六音ノ短ナルモノヲ稱スルナリ  
西洋ノ音樂ニハ長音階ト短音階トノ二種アリテ之ヲ併用セザルニ非スト雖トモ多クハ長音階ヲ用ヒ短音階ハ悲哀ノ曲ノ如キ陰氣ヲ

短音階	長音階
音八第	音八第
音七第	音七第
音六第	音六第
音五第	音五第
音四第	音四第
音三第	音三第
音二第	音二第
音一第	音一第

帶ルモノニ非レハ之ヲ用フル事甚稀ナリ然ルニ本邦ノ音樂ニハ短音階ヲ用フル事却テ多ク偶々長音階ヲ用ヒント欲スルトキハ第三音ト第六音トヲ高クスト云ヘリ今長短二種ノ音階ヲ示ス左ノ如シ  
〔上段の図〕  
以上歷舉スル所ノ諸證ニヨリテ見ルトキハ我音律ト西洋ノ音律トハ毫モ異ナル所ナシト論決シテ可ナリ

(三) 「本邦音階ノ事」

我邦在來ノ音樂ハ之ヲ大別シテ二種トス曰ク雅樂曰ク俗樂是ナリ蓋シ雅樂ハ支那傳來ノ音樂ナリ支那ノ音樂ニ於テハ宮商徵羽ト云フ事アリ之ヲ總稱シテ五声ト曰フ是レ音樂ノ基礎ヲナスモノニシテ支那ニ於テモ其由來最モ久シ然而シテ支那ニテハ音律ヲ調スルニ古來三分損益ト云フ事ヲ唱ヘ日本ニテハ順八逆六ト云フ事ヲ唱ヘ來レリ其大略ハ左ノ如シ



今音樂上ノ術語ヲ以テ之ヲ説ケハ順八ハ第五音ニシテ逆六ハ第四音ニ當レリ即チ順八トハ五音ヲ加フル事ニシテ逆六トハ四音ヲ減スル事ナリ故ニ本邦音樂家ノ云ヒ來リシ順八逆六ト云事ハ五音ヲ加ヘ四音ヲ減スルト同シ但シ呂旋ニ在リテハ此法ヲ以テ諸音ヲ取り得ベシトイヘトモ律旋ニテハ少シク難キ所アリ故ニ順六逆八ナルモノヲ